



JAL不当解雇撤回ニュース

No 091号 2011.12.15
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekai.com>

不当解雇撤回をめざし大阪で集会

12.13 JAL 不当解雇撤回・裁判勝利に向けた決起集会



写真: 開会のあいさつをする JAL 不当解雇撤回大阪支援共闘会議の萬井隆令代表

12月13日、国労大阪会館で大阪支援共闘主催の決起集会が開かれました。底冷えする師走。多忙なこの時期に、140名が集会に参加。結審を間近に控え、必ず勝利判決を引き出し、職場復帰を勝ち取ろうと、決意を固め合いました。

雇用破壊は許さない、安全の守り手 148名の原告を職場に戻そう



写真: 報告する津惠事務局長

開会のあいさつに立った大阪支援共闘会議萬井隆令代表は、雇用破壊が続く日本社会の現状に触れ、解雇撤回闘争の意義を述べ、勝利判決に向けて、力を結集しようと訴えました。

裁判の経過報告は不当解雇撤回国民共闘の津惠事務局長(航空連事務局長)。稲盛会長が法廷でも解雇は必要なかったと証言し、解雇の不当性は一層鮮明になった。そもそも必要のなかった整理解雇を何故したか? それは、分裂・差別の労務政策に屈することなく、組合員の先頭に立ち、安全や労働者の権利を守るために闘ってきた活動家を排除したかったから。

厳しい差別を受けながら、客室乗務員の若年定年制、結婚退職制、妊娠退職制を撤廃させ、女性が仕事に誇りを持ち、定年まで働ける職場に変えてきたのがCCUの原告。

分裂労務政策の下で連続事故が発生、安全運航を確立するためには発言しなければならないとして、機長の団結権を回復し闘ってきたのが乗員の原告である。

こうした歴史を築いてきた原告は、航空の労働運動、日本の労働運動にとって宝です。この原告が、安全を支える第一線で活躍できるよう全力を上げようと呼び掛けました。



止まらぬ退職者、安全安心の JAL にするため、必ず職場に戻る

客乗の内田団長、乗員の山口団長、そして日航ユニオンの塩田執行委員が職場状況の報告と闘いの決意を述べました。

内田さん:ベテランがいなくなり、安全について毅然ともの言う労働者が少なくなった。加えてこの半年で 420 名もの客室乗務員が自主退職し、日航を去った。不安全事例が続く職場実態を聞けば聞くほど、必ずあの「空に返らなければならぬ」と言う思いを強くしている。利益第一主義の経営にももの申すのは私たち労働者。安全を守るために必ず職場に戻ります

山口さん:整理解雇の 4 要件を全て踏みにじる不当解雇。日航の不当解雇は全ての労働者に向けられた攻撃です。

労働者の権利を守るために、さらに運動を広げ、必ず不当な解雇は撤回する。

塩田さん:希望

退職で多くのベテランが退職。しかし 1 月以降も退職者が止まらない。日東整は会社ごと潰され全員が解雇された。乗員も客乗も、整備でも、今安全基盤が脅かされている。解雇された 148 名の仲間を職場に戻すため、ともに闘う。



労働者の権利を守ろう、みんなの力で署名を成功させよう

京都総評の北久保和夫さんと JAL 解雇撤回闘争に連帯する兵庫の会の佐野修吉さんが連帯のあいさつ。社会保険



挨拶する北久保さん

庁の分限免職(解雇)との闘いや国鉄争議などの闘いに触れつつ、共に闘う決意を述べました。また大阪支援共闘の平井誠事務局



挨拶する佐野さん

局長代行が、公正判決を求める署名と支える会会

員の拡大運動への積極的参加を呼び掛けました。



決意表明では原告一人ひとりが発言

員が一言づつ、解雇撤回に向けた決意を述べました。

閉会のあいさつに立った大阪支援共闘の副代表 梅田章二弁護士は、勝利判決に向け重要なことは多数の署名を集めること。みんなの力でできるだけ多くの署名を集め、勝利判決を勝ち取ろうと訴えました。

集会では

- 署名.....228 筆
- 会場カンパ.....¥170950
- 支える会への加入.....16 名
- 物販の売上.....¥60370
- バッジ販売.....13 個

ありがとうございました

次回裁判で結審!

傍聴席をいっぱいにし、裁判官に対して、勝利判決への決意をアピールしましょう。

12月19日 乗員裁判 13:10~ 103法廷

12月21日 客乗裁判 11:00~ 103法廷

